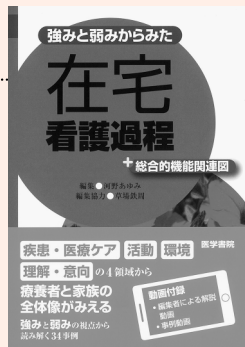


強みと弱みからみた 在宅看護過程 +総合的機能関連図

河野あゆみ=編集
草場鉄周=編集協力
本体3800円+税
医学書院 ☎03-3817-5600



河野先生は長年の看護教育の中で、学生が、訪問看護実習において看護過程（看護課題、看護診断を導く看護職の思考の道筋）を系統立てて理解するにはどうしたらよいかと考えておられた。本書は、そのような長年の思いが形になったものの1つであると言える。

で、新卒訪問看護師の育成に携わっていた

協会では、新卒訪問看護師の育成をしたいと数名の管理者が集まり、プロジェクトチームを立ち上げた。そのメンバーの1人であった私は、「現場の力だけでは限界がある」と考え、在宅看護教育の主力者に協力を仰いだ。それが、本書の編著者である河野あゆみ先生である。現在も、同協会の事業の1つである新卒訪問看護師育成事業部のメンバーとして、

看護を学ぶ、基本に戻る、 「学び直し」の本にもなっている

よどぎり訪問看護ステーション新大阪 高澤洋子

実習・演習に活用できる

本書は、在宅看護過程を学ぶための学習書であり、特に実習や演習で活用できる内容になっている。具体的な事例が提示され、「疾患・医療ケア」「活動」「環境」「理解・意向」の4つの領域から、療養者と家族の全体像を見て、「強み」と「弱み」の視点から読み解いていく流れである。

生活・環境を見る視点と、疾患・治療を見る視点、そして意思決定支援が根幹である。つまり、看護の基本が書かれている本である。

私は、訪問看護では、まずは疾患の理解（フィジカルアセスメント）が第一であると考えている。医療の専門家としては、身体的状態を把握することが重要なことである。思い込みや感覚で実践をしていないか。看護とは何か。さらに言うと生活の場での看護とは、どういうことか。もう一度考えさせられた本である。

「関連図」が思考の整理を助ける

この本を読んでいただきたいのは、学生や新卒看護師だけではない。

ベテラン訪問看護師といわれる看護経験のある看護師にこそ、ぜひ手にとっていただきたい。看護を学ぶ、基本に戻る、「学び直し」の本にもなっていると思う。関連図などは見慣れないものもあるかもしれないが、理解するとスムーズに進むことは間違いない。

訪問看護師は「弱みを解決する」援助と「強みを活かす」援助を併用している。まれに「かわいそうだから」というような手を出す傾向にある訪問看護師もいる。それは、自己の感情を優先してしまい、この2つの視点が混乱しているのかもしれない。

関連図はこの2つの視点を意識した構図になっている。この関連図を書くことにより、対象者の情報が整理される。全体像が見え、優先順位が判断できる。系統立てて考えることができる。そうして初めて、個別性を大切にできる。これが熟練の技であり、訪問看護師ならではの支援であろう。

さらに、看護課題を導きだした理論が明確になり、他者に説明しやすくなる。利点満載である。

「感じる」「考える」「整理する」「伝える」——在宅看護を知るための、看護に自信がもてるようになるための貴重な1冊である。